

## 附属資料

### 策定経過

ビジョン策定に当たっては、新たに設置した「北海道SDGs推進懇談会」や知事の附属機関である「北海道総合開発委員会」において議論を行うとともに、道民の皆様をはじめ、市町村や企業・団体、NPOなど幅広い主体の参画を得て、意見交換や調査等を実施し、意見や意向等の把握を行いました。

#### 1 北海道SDGs推進懇談会

SDGsに関する実践者や関係団体、有識者で構成する「北海道SDGs推進懇談会」を設置し、ビジョンの策定をはじめ、SDGs推進に向けて幅広い意見交換を行いました。

##### 【第1回】

- ・開催日 2018年 7月23日
- ・主な内容 「(仮称)北海道SDGs推進ビジョン」の基本的な考え方について  
「(仮称)北海道SDGs推進ビジョン」の内容について  
北海道におけるSDGsの推進体制について

##### 【第2回】

- ・開催日 2018年 8月22日
- ・主な内容 「(仮称)北海道SDGs推進ビジョン」について  
北海道SDGs推進ネットワークについて

##### 【第3回】

- ・開催日 2018年10月22日
- ・主な内容 「(仮称)北海道SDGs推進ビジョン(原案)」について

##### 【第4回】

- ・開催日 2018年12月19日
- ・主な内容 「北海道SDGs推進ビジョン(案)」の報告について  
北海道における今後のSDGsの推進について

##### 【構成員】

氏名	所属・役職
有坂 美紀	RCE北海道道央圏協議会 事務局長
大崎 美佳	環境省北海道環境パートナーシップオフィス
柏村 章夫	Ambitious Farm (アンビシャスファーム) 株式会社 代表取締役
木原 利幸	下川町政策推進課長兼政策推進統括
小泉 雅弘	特定非営利活動法人さっぽろ自由学校「遊」 理事
定森 光	特定非営利活動法人北海道NPOサポートセンター
清水 誓幸	一般社団法人北海道中小企業家同友会 理事
菅原 亜都子	公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会 事業係長
鈴木 昭徳	生活協同組合コープさっぽろ 経営企画室 マネジャー
野吾 奈穂子	JICA北海道市民参加協力課 課長補佐
吉中 厚裕【座長】	酪農学園大学 農食環境学群 環境共生学類 国際理解学研究室 准教授

※五十音順、敬称略

## <参考>

北海道 SDG s 推進懇談会構成員有志の取組として、2030 年の北海道のあるべき姿を考えるグループ別のワークショップ等が、以下のとおり開催されました。各ワークショップ等の詳細に関する資料は、道の下記のホームページに掲載しています。

- 北海道総合政策部政策局計画推進課のページ（「北海道におけるSDG sの推進について」）  
<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ss/sks/SDGs/top.htm>  
※「第3回北海道 SDG s 推進懇談会」の「構成員からの提供資料」として掲載

### 【実施概要】

2018 年9月から 10 月にかけて、4つのグループと1つのテーマで 2030 年の北海道のあるべき姿を考えるワークショップを開催。

- 1 2030 年のほっかいどうを考える Women' s Meeting
  - ・開催日時 2018 年 9月27日 ①10:00~12:00 ②19:00~21:00
  - ・会場 札幌エルプラザ
- 2 2030 年の北海道を考える the Ainu people' s Meeting
  - ・開催日時 2018 年 9月27日 19:00~20:30
  - ・会場 札幌市中央区民センター
- 3 2030 年の北海道のあるべき姿を考える CSO（市民社会組織）ミーティング
  - ・開催日時 2018 年10月 6日 13:30~16:30
  - ・会場 札幌エルプラザ
- 4 2030 年のほっかいどうを考える Youth' s Meeting
  - ・開催日時 2018 年10月10日 18:30~20:30
  - ・会場 札幌エルプラザ
- 5 持続可能な経済の創造へ~2030 年のほっかいどうを考える Economy Meeting
  - ・開催日時 2018 年10月11日 18:00~20:30
  - ・会場 札幌駅 TKP カンファレンスセンター

## 2 北海道総合開発委員会

北海道総合計画の推進について審議する「北海道総合開発委員会」及び当該委員会に設置する「計画部会」において、SDG s をテーマに議論いただき、ご意見を伺いました。

### 【北海道総合開発委員会】

- ・開催日 2018 年 8月20日
- ・主な内容 SDG s を重点テーマとして議論

### 【計画部会】

- ・開催日 2018 年10月29日
- ・主な内容 総合計画や SDG s の推進に向けて重要となる「人づくり、人材確保」を中心テーマとして議論

### 3 その他道民意見等の把握

#### (1) 道民意識調査

- ・調査地域 北海道全域
- ・調査対象 道内に居住する満 18 歳以上の個人
- ・標本数 1,500 サンプル
- ・地点数 150 地点
- ・抽出方法 層化二段無作為抽出法
- ・調査方法 郵送配付、郵送回収及び web（スマホ）による回答
- ・調査期間 2018 年 8 月
- ・有効回収数(率) 708 人（47.2%）
- ・調査内容 SDGs に関する認知度や行動すべき主な主体、取組意向など

#### (2) 道民意見提出手続（パブリックコメント）

- ・時期 2018 年 9 月～10 月
- ・方法 ビジョン（原案）に対する意見募集（ホームページによる周知のほか、道内の各種団体及び「北海道 SDGs 推進ネットワーク」構成員（企業、団体・NPO、市町村、教育機関、個人）に対しパブリックコメントの実施について周知）
- ・意見 47 件

#### (3) 市町村意見照会








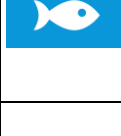


- ・時期 2018 年 9 月
- ・対象 179 市町村
- ・方法 ビジョン（原案）に対する文書での意見照会
- ・回答 11 市町村（意見 22 件）

#### (4) 地域の実践者との意見交換

- ・時期 2018 年 10 月
- ・対象 2 企業（渡島管内 1、釧路管内 1）  
2 団体（上川管内 1、根室管内 1）  
2 市町村（渡島管内 1、釧路管内 1）
- ・方法 SDGs に取り組む企業・団体等と面談の上、意見交換を実施

## 【参考】「2 北海道を取り巻く状況」ゴール別索引

ゴール	「2 北海道を取り巻く状況」の項目	ページ
 1 貧困をなくそう	(1) 北海道の現状・課題 ①生活・安心「健康・福祉」	11
 2 飢餓をゼロに	(1) 北海道の現状・課題 ②経済・産業「農林水産業」	21
	(2) 世界に誇れる北海道の価値と強み ⑤広大な土地・3つの海を背景とした高い食料供給力	42
 3 すべての人に健康と福祉を	(1) 北海道の現状・課題 ①生活・安心「健康・福祉」	11
	(1) 北海道の現状・課題 ①生活・安心「安全・安心」	18
 4 質の高い教育をみんなに	(1) 北海道の現状・課題 ③人・地域「教育」	31
	(2) 世界に誇れる北海道の価値と強み ⑦多様性に富む地域	44
	(2) 世界に誇れる北海道の価値と強み ⑧独自の歴史・文化	45
 5 ジェンダー平等を実現しよう	(1) 北海道の現状・課題 ③人・地域「男女平等参画・女性の活躍」	32
 6 安全な水とトイレを世界中に	(1) 北海道の現状・課題 ①生活・安心「環境」	15
	(2) 世界に誇れる北海道の価値と強み ④優れた自然環境・豊かな水資源と森林	40
 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	(1) 北海道の現状・課題 ②経済・産業「エネルギー」	25
	(2) 世界に誇れる北海道の価値と強み ⑥豊富で多様なエネルギー資源	43
 8 働きがいも経済成長も	(1) 北海道の現状・課題 ②経済・産業「中小・小規模企業」	24
	(1) 北海道の現状・課題 ②経済・産業「観光」	26
	(1) 北海道の現状・課題 ②経済・産業「雇用」	27
	(2) 世界に誇れる北海道の価値と強み ①魅力となる雪や寒さ	37
	(2) 世界に誇れる北海道の価値と強み ②アジア・ロシアとの近さなど地理的優位性	37
	(2) 世界に誇れる北海道の価値と強み ⑤広大な土地・3つの海を背景とした高い食料供給力	42
	(2) 世界に誇れる北海道の価値と強み ⑦多様性に富む地域	44
(2) 世界に誇れる北海道の価値と強み ⑧独自の歴史・文化	45	
 9 産業と技術革新の基盤をつくろう	(1) 北海道の現状・課題 ②経済・産業「地域産業と研究開発」	23
	(1) 北海道の現状・課題 ③人・地域「インフラ」	34
	(2) 世界に誇れる北海道の価値と強み ③厳しい自然条件などの下で育れた優れた技術	39

ゴール	「2 北海道を取り巻く状況」の項目	ページ
 10 人や国の不平等をなくそう	(1) 北海道の現状・課題 ①生活・安心「安全・安心」	18
 11 住み続けられるまちづくりを	(1) 北海道の現状・課題 ①生活・安心「環境」	15
	(1) 北海道の現状・課題 ①生活・安心「防災」	19
	(1) 北海道の現状・課題 ③人・地域「地域」	29
	(2) 世界に誇れる北海道の価値と強み ②アジア・ロシアとの近さなど地理的優位性	37
	(2) 世界に誇れる北海道の価値と強み ⑦多様性に富む地域	44
 12 つくる責任 つかう責任	(2) 世界に誇れる北海道の価値と強み ⑧独自の歴史・文化	45
	(1) 北海道の現状・課題 ①生活・安心「環境」	15
	(1) 北海道の現状・課題 ②経済・産業「観光」	26
 13 気候変動に具体的な対策を	(2) 世界に誇れる北海道の価値と強み ⑦多様性に富む地域	44
	(1) 北海道の現状・課題 ①生活・安心「環境」	15
 14 海の豊かさを守ろう	(1) 北海道の現状・課題 ①生活・安心「環境」	15
	(1) 北海道の現状・課題 ①生活・安心「防災」	19
 15 陸の豊かさも守ろう	(2) 世界に誇れる北海道の価値と強み ②アジア・ロシアとの近さなど地理的優位性	37
	(1) 北海道の現状・課題 ①生活・安心「環境」	15
 16 平和と公正をすべての人に	(1) 北海道の現状・課題 ②経済・産業「農林水産業」	21
	(2) 世界に誇れる北海道の価値と強み ④優れた自然環境・豊かな水資源と森林	40
 17 パートナリシップで目標を達成しよう	(1) 北海道の現状・課題 ①生活・安心「環境」	15
	(1) 北海道の現状・課題 ②経済・産業「農林水産業」	21
 18 平和と公正をすべての人に	(2) 世界に誇れる北海道の価値と強み ④優れた自然環境・豊かな水資源と森林	40
	(1) 北海道の現状・課題 ①生活・安心「安全・安心」	18
 19 平和と公正をすべての人に	(1) 北海道の現状・課題 ③人・地域「教育」	31
	※ビジョンの推進全体に関連するため、「4 ビジョンの推進」に掲載	88

## 用語解説

本文中で「〇〇〇※」と表示された用語の解説。  
用語の横の数字は当該用語が記載されているページを表示。

## ア 行

エネルギーミックス 25、43

エネルギーにはさまざまな種類があり、それぞれの特性を踏まえ、安全性を前提とした上で経済性、環境性、供給安定性の観点から電源構成を最適化すること。

オリンピック 83

オリンピック選手。オリンピック出場経験者。

温室効果ガス 16、65

大気中の赤外線を吸収し、地表付近の大気を暖める効果をもつ二酸化炭素、メタンなどの気体。人間活動による温室効果ガスの排出量増加により地球温暖化が進行しているといわれる。

## カ 行

義務教育学校 75

平成 28 年 4 月に学校教育法等の一部改正により新たに制度化された学校種。小学校と中学校が円滑に接続し、義務教育 9 年間を通じて子どもたちを育成することを目指した学校。

京都議定書 8

平成 9 (1997) 年 12 月に京都で開催された第 3 回気候変動枠組条約締約国会議 (COP 3) において、二酸化炭素など温室効果ガス排出の先進国の削減目標として採択されたもの。削減対象の温室効果ガスを二酸化炭素 (CO<sub>2</sub>)、メタン (CH<sub>4</sub>)、一酸化二窒素 (N<sub>2</sub>O)、ハイドロフルオロカーボン (HFC)、パーフルオロカーボン (PFC)、六フッ化硫黄 (SF<sub>6</sub>) の 6 種と定め、削減率は先進国全体で総排出量の 1990 年基準比で少なくとも 5% 以上、かつ国別にそれぞれ具体的な数値を割り当てて、これを 2008 年から 2012 年にかけて達成すべき義務を課すとともに、京都メカニズムが導入された。平成 17 (2005) 年 2 月発効。

クラウドソーシングサービス 60

インターネット上で不特定多数の人材に対して業務内容と報酬を提示し、仕事を発注する手法。通常、発注者と受注者はネット上の専用サービスによって仲介される。

クラウドファンディング 72

個人や企業、その他の団体などが、インターネットを介して、寄付、購入、投資などの形態で、不特定多数の支援者から少額の資金を調達する仕組み。群衆を意味する「crowd」と、資金調達を意味する「funding」を組み合わせ、クラウドファンディング (crowdfunding) と呼ばれている。

グリーン購入 66

商品やサービスを購入する際に必要性をよく考え、価格や品質、デザインだけではなく、環境への負荷ができるだけ少ないものを優先的に購入すること。

クリーン農業 39

堆肥等の有機物の施用などによる土づくりに努め、化学肥料や化学合成農薬の使用を必要最小限にとどめるなど、農業の自然循環機能を維持増進させ、環境との調和に配慮した、安全・安心、品質の高い農産物の生産を進める農業。

刑法犯 18、48、55

道路上の交通事故に係る危険運転致死傷、業務上 (重) 過失致死傷及び自動車運転過失致死傷を除いた「刑法」に規定する罪で、「暴力行為等処罰二関スル法律」、「盗犯等ノ防止乃処分二関スル法律」等、刑法に関連する一定の特別法も含む。

公益的機能 41、68

森林の持つ様々な機能のうち、水源かん養、山地災害防止、土壌保全、快適環境形成、保健・レクリエーション、文化、生物多様性保全、地球環境保全など、木材等生産機能を除く諸機能。

固定価格買取制度 (FIT) 25

再生可能エネルギーで発電した電気を、電力会社が一定価格で買い取ることを国が約束する制度。電力会社が買い取る費用を、電気を利用する人から賦課金という形で集め、今はまだコストの高い再生可能エネルギーの導入を支えている。

## 国内希少野生動植物種 17

絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律に基づき、国内に生息・生育する絶滅のおそれのある野生動物のうち、人為的な影響により減少が見られる種等を指定。原則、捕獲等、販売目的の陳列又は広告、譲り渡し等、輸出入を禁止。

## サ行

### 再生可能エネルギー 25、43、49、64、65

太陽光、風力、水力、波力、地熱、バイオマスなど、持続的に利用することができるエネルギー源を利用して得られるエネルギー。

### サプライチェーン 58

原材料・部品などの調達から、生産、流通を経て最終需要者に至るまでの一連のプロセス。

### 産業連関表 73

産業構造及び産業間の相互依存関係を定量的に明らかにする基礎資料であり、国、地方公共団体や大学、各種研究機関等において、マクロ経済に関する分析や経済波及効果分析などを行う際に、幅広く活用されている表。

### ジェンダー 3、4、5、32、47、49

「社会的・文化的に形成された性別」のこと。人間には生まれつきの生物学的性別（セックス／sex）がある。一方、社会通念や習慣の中には、社会によって作り上げられた「男性像」、「女性像」があり、このような男性、女性の別を「社会的・文化的に形成された性別」（ジェンダー／gender）という。

### 自然公園 15、41、63

すぐれた自然を守り、誰もがその自然を楽しめるように、自然公園法や北海道立自然公園条例で定められた地域。北海道には23カ所の国立公園、国定公園及び道立自然公園がある。

### 就学援助（制度） 12

学校教育法上の実施義務に基づき、各市町村が、経済的理由により小・中学校への就学が困難と認められる学齢児童生徒の保護者に対して、学用品の支給などの援助を行う制度。

## 生涯活躍のまち（日本版CCRC）構想 81、82

東京圏を初めとする地域の高齢者が、希望に応じ地方の「まちなか」に移り住み、地域住民や他世代と交流しながら健康でアクティブな生活を送り、必要に応じて医療・介護を受けることができるような地域づくりをめざす考え方。

### 新エネルギー 25、39、49、64、65

非化石エネルギーのうち、技術的に実用段階に達しつつあるが、経済性から普及が十分に進んでおらず、利用促進を図るべきエネルギー。太陽光、風力、バイオマス等を利用して得られるエネルギーなど。

### 人権侵犯 19、56

法律などに違反した行為だけに限らず、広く、憲法や世界人権宣言の基本原則である人権尊重の精神に反するような行為をいい、強制強要（職場での嫌がらせ）、親からの結婚妨害、名誉、信用の毀損なども含まれる。

### 森林認証 66、68

独立した第三者機関が一定の基準等を基に、適切な森林管理や持続可能な森林経営が行われている森林や木材流通・加工業者を認証し、それらの森林から生産された木材・木材製品へラベルを貼り付けることにより、消費者の選択的な購買を通じて、持続可能な森林経営を支援する取組。現行の制度としては、世界レベルの認証制度であるFSC（森林管理協議会）やPEFC（森林認証プログラム）、我が国独自の認証制度で、PEFCに加盟しているSGEC（「緑の循環」認証会議）などがある。

### 水産エコラベル 67

生態系や資源の持続性に配慮した方法で漁獲された水産物であることを表すラベル。2005（平成17）年、FAO（国際連合食糧農業機関）の政府間技術会合において漁業そのものや流通加工過程での管理の取組を定めたガイドラインが合意され、欧米等では民間の認証機関によるエコラベル制度が徐々に導入されている。

## 水素ステーション 64

燃料電池自動車などに水素を供給するための拠点となるもので、ガソリン自動車のガソリンスタンドに相当。

## スポーツツーリズム 83

スポーツを「見る」「する」ための旅行及びそれに伴う周辺観光や、スポーツを支える人々との交流など、スポーツによる「豊かな旅行スタイルの創造」を目指すこと。

## スマート農業 67、68

ロボット技術やICTを活用した超省力・高品質生産を実現する新たな農業。

## スマートハウス 39

エネルギー管理システムによって、家庭におけるエネルギーの需要と供給に関する情報を効率的に管理して、最適制御する機能を備えた住宅のこと。

## 生物多様性 4、21、40、41、49、51、62

それぞれの地域の自然環境に応じた様々な生態系が存在すること並びに生物の種間及び種内に様々な差異が存在することをいう（生物の多様性、種の多様性、種内（遺伝子）の多様性。）。生物多様性は、すべての生物の「固有種」と「つながり」によって成り立っている。

## 世界自然遺産 15、41、63

世界遺産条約により登録される遺産（世界遺産）のカテゴリーの一つ。自然遺産は、世界的な見地から見て鑑賞上、学術的又は保存上顕著な普遍的価値を有する特徴ある自然の地域、脅威にさらされている動植物種の生息地、自然の風景地等を対象としている。世界遺産には「自然遺産」のほか、「文化遺産」、両方の価値を兼ね備えている「複合遺産」がある。

## 全国学力・学習状況調査 31、32、77

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立て、さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立することを目的として、国が平成19年度から実施している調査のこと。なお、

小学校第6学年及び中学校第3学年を対象に実施している。

## 全国体力・運動能力、運動習慣等調査 31、77

子どもの体力が低下している状況に鑑み、全国的な子どもの体力の状況を把握・分析することにより、子どもの体力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子どもの体力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立し、学校における体育・健康に関する指導などの改善に役立てることを目的として、国が全国の小学校第5学年及び中学校第2学年を対象に平成20年度から実施している調査。

## 全道産学官ネットワーク推進協議会 23、71

道内の大学・高専や公設試験研究機関、産業界、金融機関等を構成員として、それぞれが有する地域における産学官連携の取組に関する情報やノウハウの交換などを実施し、北海道における産学官連携の促進を目的としている協議会。

## タ行

### タブレットPC 76

タブレット（平版）型の端末で、液晶の画面に指先をあてながら操作する「タッチパネル」が採用されている。ノートパソコンより小さくて軽いため、片手で持ちながら利用可能。

### 地域包括支援センター 53

高齢者の生活を支える役割を果たす総合機関。高齢者やその家族が抱える介護サービスや権利擁護、高齢者虐待、消費者被害などの様々な相談に応じる窓口として、道内全179市町村に設置されている。

### 低炭素型（の）ライフスタイル 15、64

環境物品等の購入、公共交通機関の利用への転換、自動車等の適正な運転など、温室効果ガス削減に向けた行動様式。

### データセンター 57、58

サーバを仕切って複数の利用者に貸し出す、あるいは顧客のサーバを預かるなどして、インターネットへの接続回線や保守・運用サービスなどを提供する施設。

## 特定外来生物 17、62

特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律に基づき、本来、日本に生息・育成していなかった生物（外来生物）のうち、生態系・人の生命・身体、農林水産業への被害を及ぼすものを指定。原則、飼養、栽培、保管、運搬、輸入、販売・譲渡、放出を禁止。

## ドローン 78

無人で遠隔操作や自動制御などにより飛行できる航空機のこと。

## ナ行

### 二次医療圏 13

主として病院の病床及び診療所の病床の整備を図るべき地域単位であり、概ね入院医療サービスの完結を目指す地域単位。北海道は、21の第二次医療圏を設定している。

### 日本版DMO 73

【Destination Management/Marketing Organization】

地域の「稼ぐ力」を引き出すとともに地域への誇りと愛着を醸成する「観光地経営」の視点に立った地域づくりの舵取り役として、多様な関係者と協同しながら、明確なコンセプトに基づいた観光地域づくりを実現するための戦略を策定・実施する法人。

### 燃料電池 39、64

化学反応によって水素などから電力を取り出す装置。

### 燃料電池自動車（FCV） 64

水素を燃料として車載し、空気中の酸素との化学反応により発電した電気を使いモーターで走行する自動車。利用段階で二酸化炭素を排出しない。（Fuel Cell Vehicle）

### 年齢調整死亡率 14、54

年齢構成の異なる地域間で死亡状況の比較ができるように年齢構成を調整した人口10万人当たりの死亡数。

## ハ行

### バイオマス 25、43、71

家畜ふん尿、食品廃棄物、稲わら、林地残材など

の再生可能な生物由来の有機性資源（石炭や石油などの化石資源を除く）。

### ハザードマップ 20、59

自然災害が予測される区域や避難場所、避難経路など住民が自主的に避難するために必要な防災情報をわかりやすく地図上に表示したもの。防災マップなどとも呼ばれており、対象とする災害に応じて作成されている。

### 付加価値生産性 23、49、71

付加価値額を従業者数で除したものの、従業者一人当たりの付加価値額。

### 北大R&BP構想 23

北大リサーチ&ビジネスパーク構想の略。産学官の協働のもとで、研究開発の促進とともに大学等が保有する知的資産の有効活用によって、新技術・新製品の開発やベンチャー企業・新産業の創出を図り、北海道経済・産業の活性化とともに、我が国の発展に貢献していこうという取組。

### 北海道地域防災マスター 58

地域防災力の強化に向け、地域における防災活動のリーダーとして活動する者。

### 北海道福祉人材センター 13、53、54

福祉・介護分野で働きたい求職者と人材を求める事業所を結びつける無料職業紹介や、就労希望者に対する説明会・講習会の開催、事業所の管理者等に対する人材確保相談等を実施する非営利組織で、社会福祉法人北海道社会福祉協議会が知事の指定を受けて設置・運営している。

### 北海道・北東北縄文遺跡 46、83

津軽海峡を挟んだ日本列島の北海道・北東北に位置し、縄文時代の各時期（草創期、早期、前期、中期、後期、晩期）における、人々の生活跡の実態を示す遺跡（集落跡、貝塚、低湿地遺跡）や、祭祀や精神的活動の実態を示す記念物（環状列石、周堤墓）で構成された17遺跡からなる考古学的遺跡群。

### 北極海航路 38、86、87

北極海を航行してアジアとヨーロッパを結ぶ最短航路。ヨーロッパと東アジアを結ぶ主要航路である「南回り航路」（マラッカ海峡、スエズ運河経由）



に比べ航行距離は約6割程度。

## マ 行

### 埋蔵文化財 84

その土地に埋蔵されている文化財で、国や地域の歴史や文化の成り立ちを明らかにする上で欠くことのできない国民共有の財産であり、個性豊かな地域の歴史的・文化的環境を形づくる貴重な資産となるもの。

### 木質バイオマス 22、67

木材からなるバイオマス（別掲）。主に、樹木の伐採や造材のときに発生した枝、葉などの林地残材、製材工場などから発生する樹皮やのこ屑などのほか、住宅の解体材や街路樹の剪定枝などの種類がある。

### 木質ペレット 67

林地未利用材や製材工場から発生する端材、オガ粉などを円筒状（直径6～10mm、長さ10～30mm）に圧縮成型した固形燃料。化石燃料の使用量を減らすことができるバイオマスエネルギーとして注目。

## ラ 行

### ラムサール条約湿地 41

「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約」に基づき、締約国が国際的な基準に従って湿地を指定し、「国際的に重要な湿地に係る登録簿」に登録された湿地。当該条約は、1971年にイランのラムサールで開催された「湿地及び水鳥の保全のための国際会議」において採択されたことから、一般的に「ラムサール条約」と呼ばれる。

## ワ 行

### ワーク・ライフ・バランス 7、80

仕事と生活の調和。「仕事」と育児や介護、趣味や学習、教養、地域活動といった「仕事以外の生活」との調和を図り、その両方を充実させる働き方、生き方のこと。

## 英 数 字

### ASEAN（アセアン） 74

【Association of South-East Asian Nations】

東南アジア諸国連合の略。東南アジア10カ国（インドネシア、カンボジア、シンガポール、タイ、

フィリピン、ブルネイ、ベトナム、マレーシア、ミャンマー、ラオス）から成る。

### COOL CHOICE 64

省エネ・低炭素型の製品への買換・サービスの利用・ライフスタイルの選択など、地球温暖化対策に資する「賢い選択」を促す国民運動。

### CSR（企業の社会的責任） 62

【Corporate Social Responsibility】

企業の社会的責任の略。企業は社会的な存在であり、自社の利益、経済合理性を追求するだけではなく、ステークホルダー（利害関係者）全体の利益を考慮して行動すべきであり、行動法令の遵守、環境保護、人権擁護、消費者保護などの社会的側面にも責任を有する考え方。

### FSC 68

【Forest Stewardship Council】

森林認証を参照。

### GAP 68

【Good Agricultural Practice】

農業生産活動を行う上で必要な関係法令に即して定められている点検項目に沿って、農業生産活動の各工程の正確な実施、記録、点検及び評価を行うことによる持続的な改善活動のこと。

### GPS 78

【Global Positioning System】

全地球無線測位システム。人工衛星を利用して、利用者の地球上における現在位置を正確に把握するシステムのこと。

### HACCP 67

【Hazard Analysis and Critical Control Point】

危害要因分析重要管理点の略。従来の最終製品の抽出検査とは異なり、原料の受入れから製造・出荷までの各工程において、危害要因をチェックし、製造における重要な工程を連続的に監視することによって、一つ一つの製品の安全性を保証しようとする食品衛生管理手法。

ICT 67、68、75、78

【Information and Communications Technology】

情報・通信に関する技術一般の総称。

## I o T 70

【Internet of Things】

自動車、家電、ロボット、施設などあらゆるモノがインターネットにつながり、情報のやり取りをすることで、モノのデータ化やそれに基づく自動化等が進展し、新たな付加価値を生み出すというもの。

## L G B T 56

L：女性の同性愛者（Lesbian：レズビアン）

G：男性の同性愛者（Gay ギイ）

B：両性愛者（Bisexual：バイセクシャル）

T：こころの性とからだの性との不一致

（Transgender：トランスジェンダー）

## M S C 認証 66、67

ロンドンに本部を置く N P O、Marine Stewardship Council（海洋管理協議会）により、持続可能な漁業で取られた水産物であることを証明された水産エコラベルの一つ。

## P E F C 68

【Programme for the Endorsement of Forest Certification Schemes】

森林認証を参照。

## S G E C 68

【Sustainable Green Ecosystem Council】

森林認証を参照。

## 3 R 66

廃棄物などの発生抑制（リデュース Reduce）、再使用（リユース Reuse）、再生利用（リサイクル Recycle）の頭文字。

## 6次産業化 68

1次産業としての農林漁業と、2次産業としての製造業、3次産業としての小売業などの事業との総合的かつ一体的な推進を図り、地域資源を活用した新たな付加価値を生み出す取組。

## 「我々の世界を変革する： 持続可能な開発のための2030アジェンダ」(結語)

人類と地球の未来は我々の手の中にある。そしてまた、それは未来の世代にたいまつを受け渡す今日の若い世代の手の中にもある。持続可能な開発への道を我々は記した。その道のりが成功し、その収穫が後戻りしないことを確かなものにするには、我々すべてのためになるのである。



**SUSTAINABLE  
DEVELOPMENT  
GOALS**

2030年に向けて  
世界が合意した  
「持続可能な開発目標」です



**2018年は北海道150年**  
Hokkaido's 150th Anniversary

## 北海道 SDG s 推進ビジョン

2018 (平成30) 年 12 月

北海道 総合政策部 政策局 計画推進課

電話 011-231-4111 (代表)